北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会　http://miyazawa-lane.com/

事務局たより

第 26 号　2018 年 8 月 1 日　chyda-kr@f8.dion.ne.jp
◇事務局　101-0061 千代田区神田三崎町 2-19-8　杉山ビル 2F
千代田区労協気付　T:03-3264-2905 F:03-6272-5263

オウム死刑執行は国民への恫喝ではないか！

１月 22 日､小雪ちらつく中で開会された第 196 回通常国会は、自公与党が会期を延長して悪法成立を強行し尽くした半年後の７月 22 日､西日本豪雨被害が日ごと深刻化しているなかで、閉会となりました。

この国会開会中の７月３日、上川陽子法相はオウム死刑囚 13 人の死刑執行を決裁し、７月６日に７人、26 日に６人の死刑を執行しました。執行といえばもっともらしく聞こえますが､「法務大臣が殺害を命じた」のです。死刑は国家権力による殺人です。これを聞いた時､戦慄が頭の中を走り抜けました｡「多数さえ握れば嘘をつきとおし、腕力のふるい放題になるのだ」と。

死刑執行を直接命令するのは法務大臣でしょう。しかし安倍首相が事前に知らないはずはありません。官邸主導で言論・異論を封じている安倍内閣です。死刑執行の結果が国民にどのような心理的な影響を与えるか、今後の政治運営にどう関係するかを検討した上の執行であったことは間違いありません。

オウム死刑囚 13 人のうち 10 人は再審請求中です。再審請求は国民の権利です。13 人は 50 歳代から 60 歳代です。再審を通じて狂気の真相を突き止めるべきだったのです。また死刑制度の是非については議論がありますが、国際的には廃止が主流です。安倍内閣はこれらを無視しました｡“政権にとって不都合な者は生かしてはおかない”という恫喝ではないでしょうか。

５年半となる安倍政治は、秘密保護法、戦争法、共謀罪法という弾圧と戦争への道を強行し、“森友・加計汚職”では公文書隠蔽・改竄と行政を私物化し、嘘と卑怯極まる政治姿勢を押し通し、ついに国家権力による殺人を公然と実行するまでになったのです。

加えて、杉田某自民党衆議院議員は、ＬＧＢＴなどは生産性がないので税金で支援するのはおかしいと書き、大問題になっています。安倍首相は、この議員を擁護していると報道され、二階自民党幹事長もこの発言を問題視していません。安倍首相は本音を代弁させているのです。二枚舌極まると言うべきでしょう。

今､安倍首相は９月の自民党大会で三選を得るべく、豪雨被害者救済そっちのけで多数派工作に狂奔しています。こんな安倍政治を許してはなりません｡「安倍内閣をぶっ倒す」一点で、声を上げ、行動しようではありませんか。　（福島　清）

「私は捏造記者ではありません！」

植村裁判札幌訴訟が結審 11月9日に判決

捏造記者攻撃と闘う植村隆さん札幌訴訟第 12 回高等弁論は、7 月 6 日午後、札幌地裁で行われました。傍聴席 65 席に 113 人で抽選となり、私は運良く当選しました。植村弁護団は、これまでの主張をまとめた膨大な最終準備書面を提出し、伊藤整一弁護士が 3 点にわたって陳述しました。最後に植村さんの事実に基づいた感動的な涙声の陳述を聞くことができました。この日で結審となり、判決は 11 月 9 日午後 3 時 30 分に出されることになりました。（根岸正和）

札幌地裁に向かう植村隆さん（左から２人目）と弁護団＝植村裁判を支える市民の会ホームページから

植村隆さんの最終陳述（要旨）

私は高知の田舎町で、母一人子一人の家で育ちました。豊かな暮らしではありませんでした。小さな町でも、在日朝鮮人や被差別部落の人びとへの理不尽な差別がありました。そんな中で、「自分は立場の弱い人々の側に立とう。決して差別する側に立たない」と決意しました。そして、その延長線上に、慰安婦問題の取材があったと説明していました。

新聞記者となり、差別のない社会、人権が守られる社会をつくりたいと思って、記事を書いてきました。それがなぜ、こんな理不尽なバッシングにあい、日本での大学教員の道を奪われたのでしょうか。なぜ、娘を殺すという脅迫状まで、送られて来なければならなかったのでしょうか。なぜ、私へのバッシングに北星学園大学の教職員や学生が巻き込まれ、爆破や殺害の予告まで受けなければならなかったのでしょうか。

私は、慰安婦としての被害を訴えた金学順さんの思いを伝えただけなのです。そして「日本の加害の歴史を、日本人として、忘れないようにしよう」と訴えただけなのです。韓国で慰安婦を意味し、日本の新聞報道でも普通に使われていた「挺身隊」という言葉を使って、記事を書いただけです。

北海道新聞のソウル特派員だった喜多義憲さんは私の記事が出た４日後、私と同じように「挺身隊」という言葉を使って、ほぼ同じ内容の記事を書きました。いま産経新聞や読売新聞は、慰安婦の強制連行はなかったと主張する立場にありますが、1990 年代の初めに金学順さんのことを書いたこの両新聞の記者たちは、金さんの被害体験をきちんと伝えようと、ジャーナリストとして当たり前のことをしたのだと思います。

しかし、私だけがバッシングを受けました。娘は、「『国賊』植村隆の娘」として名指しされ、「地の果てまで追い詰めて殺す」とまで脅されました。あのひどいバッシングに巻き込まれた時、娘は 17 歳でした。それから４年。『殺す』とまで脅迫を受けたのに、娘は、心折れなかった。そのおかげで、私も心折れず、闘い続けられました。私は娘に「ありがとう」と言いたい。娘を誇りに思っています。

被告・櫻井よしこさんは、明らかに朝日新聞記者だった私だけをターゲットに攻撃しています。私への憎悪を掻き立てるような文章を書き続け、それに煽られた無数の人びとがいます。櫻井さんは、事実に基づかない形で、私を誹謗中傷していることが、この裁判を通じて明らかになりました。そして誤った事実に基づいた、櫻井さんの言説が広がり、ネット世界で私への憎悪が増幅されたことも判明しました。

しかし、櫻井さんは、私の指摘を無視できず、２年以上経っていましたが、「WiLL」と産経新聞で訂正を出すまでに追い込まれました。実は、訂正文には新たな間違いが付け加えられていました。金さんが強制連行の被害者でないというのです。日本軍による強制連行という結論をもつ記事に依拠しながらも、その結論の部分を再び無視していました。極めて問題の大きい訂正でしたが、櫻井さんの取材のいい加減さが、白日のもとに晒されたという点では大きな前進だったと思います。

櫻井よしこさんをはじめとする被告の皆さん、被告の代理人の皆さん。長い審理でしたが、皆様方はいまだに、ご理解されていないことがあると思われます。大事なことなので、ここで、皆様方に、もう一度、大きな声で、訴えたいと思います。

「私は捏造記者ではありません」

裁判所におかれては、公正な判決が下されることを期待しております。

＜第 52 回　ヒロシマ　連続講座＞

原水禁運動が果たした歴史的役割

～岩垂弘さん（ジャーナリスト）講演～

７月７日、駒込で開かれた＜第 52 回ヒロシマ連続講座＞で、岩垂弘さん（朝日新聞ＯＢ、平和・協同ジャーナリスト基金代表運営委員）の「原水禁運動が果たしてきた歴史的役割」を聞きました。岩垂さんは最初に「７月７日は七夕だが、1937 年には日中戦争がおこり、昨年は核兵器禁止条約が国連会議で採択された歴史的な日だ」として、詳細なレジュメと核問題関連年表をもとに講演しました。

原水禁運動は、被曝の実相を知らせ、世界の世論を高め、部分的核実験禁止条約、核不拡散条約、包括的核実験禁止条約、核兵器禁止条約などの制定に貢献した一方、運動の分裂、国際連帯に必要な人材の乏しさなど弱点と限界もあると指摘しました。特に「矛盾に対する鈍感さ、“核の傘”の下で反核を叫ぶおかしさ」を強調しました。

しかし国際的にみると、1990 年代以降、「国際平和ビューロー」「核戦争防止国際医師会議」「国際反核法律家協会」「世界保健機構」などが核兵器問題について、さまざまな活動を継続発展させていること、2006 年には「アジア非核地帯条約」が調印されたことなどが、昨年の「核兵器禁止条約採択」につながっていること、そして 12 月には「核兵器廃絶国際キャンペーン（アイキャン）」がノーベル平和賞を受賞するなど、世界の流れは、前進していると紹介しました。

岩垂さんの核問題関連年表に沿って日本における原水禁運動の簡単な経過を整理してみます。

1945～1952　原爆による被害状況は、講和発効まではＧＨＱが報道を規制したが、1950 年、丸木夫妻の「原爆の図」が全国 170 個所で展示された。

1952. 8. 6　対日講和条約発効後のこの日「アサヒグラフ」が原爆被爆者写真特集を初めて発行。

1954. 3. 1　米国がビキニ環礁で水爆実験／5. 9　水爆禁止署名運動杉並協議会発足

1955. 8. 6　第１回原水爆禁止世界大会（広島）／9. 19　原水爆禁止日本協議会（原水協）結成

1963. 8. 5　原水協の第９回世界大会が「いかなる国の核実験にも反対」「部分的核実験禁止条約の評価」をめぐって分裂。社会党・総評系が不参加

1977. 5. 19　原水協、原水禁のトップが「77 年大会は統一大会とする」「年内をめどに国民的大統一の組織を実現する」ことで合意／8. 3　「協」「禁」、市民団体が加わる統一世界大会が、分裂から 14 年ぶりに広島で開会

1986. 7. 17　原水爆禁止世界大会が開催不能に（運動は再分裂）→現在に至る。

＊

私にとっての原水禁運動は、1963 年に毎日新聞労組東京支部青年部長になってからでした。当時、原水禁運動は、岩垂さんの年表にあるように「いかなる国の核実験にも反対」と「部分的核実験停止条約」支持を運動の基本路線とすることの是非について混乱し、新聞労連も影響を受けて大もめしていました。当時の毎日新聞労組委員長は新聞労連の方針に反対し「青年部は日共的だ」と批判する林卓男さん。「委員長と青年部は天敵だ」と冷やかされたことを思い出します。毎日新聞では社会部の飯泉栄次郎さんが原水禁運動の報道に関わっていたと思います。

＊

岩垂さんは、1958 年に朝日新聞入社し、1995 年退社。1967 年から平和運動を取材。現場に行き、自分の目で見た事以外は書かない姿勢を貫き、「ヒロシマ取材には今年も行く。49 回になるが、毎年新しい発見がある」と語りました。

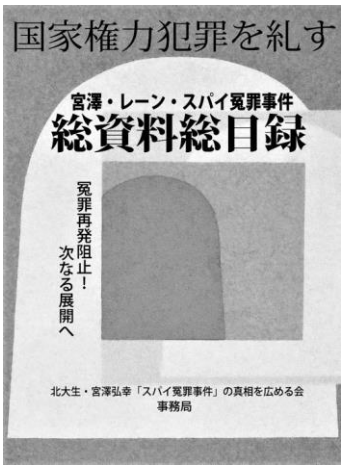
岩垂さんは諏訪清陵高校の３年先輩。1954 年に入学したとき、卒業する先輩として激励してくれました。講座開会前、雑談でそんなことを伝えましたが、岩垂さんは覚えていないと。宮澤・レーン・スパイ冤罪事件について関わっていることを話し、後日資料を送ったところ、お礼メールをいただきました。

＜ヒロシマ連続講座＞は、立川市に住む竹内良男さんが中心になって企画・実行しています。関千枝子さんから「竹内さんも長野県出身ですよ」と誘われ、参加しました。この日も参加していた関さんは「今年もヒロシマに行く」と言っていました。

平和運動はこうした地道な努力が支えていることを実感した一日でした。　　（福島　清）

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件『総資料総目録』

制作費カンパ 848,820 円
ご協力に感謝します



『国家権力犯罪を糺す　宮澤・レーン・スパイ冤罪事件　総資料総目録』（2018 年 1 月 29 日発行、404 ページ、300 冊）の制作発行に際して、90 人のみなさまから 84 万 8820 円の制作費カンパをいただきました。誠にありがとうございました。制作費・郵送費等は、64 万 8,177 円でしたので、残金 182,211 円は、真相を広める会事務局経費として活用させていただきます。

本書は、カンパをいただいたみなさまをはじめ、北大ＯＢ，弁護士、研究者、マスコミ関係者、平和・人権擁護に取り組む団体、主要公立・国公立大学図書館等に贈呈しました。また、全文は連続データと目次順に個別データにしたＰＤＦの二種類にして、本会ホームページで公開しています。

http://miyazawa-lane.com/library.html#title07

◇制作費カンパをいただいたみなさま

赤川博敏、秋間達男、石戸谷滋、石塚勝、石崎博志、泉定明、伊藤陽一、岩渕雅樹、植島幹四郎、上野祥子、内田隆、江守信正、大住広人、大島幸夫、小川忠男、梶田博昭、金谷貞夫、金子勝、亀山久雄、刈谷純一、川島金次、川村好正、木村武晴、国吉昌晴、久保博夫、久保田正子、畔柳光輝、小林寛志、斉藤道俊、斉藤哲成、坂本和昭、坂本友子、佐々木南夫、佐藤和雄、佐藤稔明、澤田治、宍戸迪武、篠原省三、島田修一、清水忠、神保大地、鈴木真理、関千枝子、滝沢香、武田泉、田中重仁、田場武勝、田村徳章、田原恒男、茶原正士、寺沢玲子、寺澤佳昭、戸塚章介、中原章雄、中野貞彦、永井靖二、名取善子、和孝雄、西山公雄、根岸正和、林秀起、林田英明、福島清、福島徳二、藤田修二、藤本佳男、古川俊実、古里洋聿、本間照光、前田次郎、松永光司、松江勇、松島和幸、松田宏一、水久保文明、皆川真知子、宮坂浩、三宅信一、宮地さか枝、宮田汎、村瀬喜之、森杲、梁田政方、山口幸夫、山田博之、吉田隆、吉田万三、吉田栄一、芳尾孝治、渡辺眞知子（敬称略・五十音順）

＜コラム＞　冤罪忘れるな！㉖

道連れで検挙・有罪

北大卒業生・黒岩喜久雄

1941 年 12 月 27 日、北大繰り上げ卒業の日に、軍機保護法違反の一斉検挙・追加で検挙され、懲役 2 年・執行猶予 5 年の刑に処せられた。学術旅行で見聞したサイパン島などの海軍飛行場の状況を「探知」し、知人であるレーン夫妻に「漏泄」したというのが、判決上の罪。実際には、レーン夫妻をスパイに陥れるために、夫妻の言動を引き出そうと、長期拘留された。

訪日したレーン夫妻の娘・ドロシー（左）キャサリンと黒岩喜久雄（1987.9.30、東京で）

黒岩は、長野県に生まれ育ち、北大農学部で学び戦時繰り上げで卒業した。在学中、レーン夫妻の双子の娘たちの遊び相手となり、家族同然の知遇を得た。そこを特高に狙われ、夫妻の日常生活での言動を微に入り細に渡って問い質された。公判は 1 回開かれただけで即決、罪状も判決理由も示されず、判決文も見せられていない。何が何だか全く不明のまま暗黒拘置され暗黒裁判で突き落とされた、のが実相だった。

♦　♦　♦

「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春―戦争と国家秘密』花伝社刊

第 1 部＝冤罪の真相、第 2 部＝冤罪事実の条条検証　資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引（別冊）

申し込みは FAX・メールで本会事務局まで（1 面上部題字横に掲載）。送料税込み 2300 円。後払い。

【事務局から】北大内海ゼミ OB の石井明典、伊藤陽一、泉定明、山口幸夫の 4 氏が発行している「えんれい草」が、2018 年 7 月 5 日発行の第 20 号で休刊となりました。原発問題を出発点に、政治から文化、そして宮澤・レーン・スパイ冤罪事件についてもページを割いてくださいました。またみなさんは、「真相を広める会」の幟を立てて、官邸前行動参加を続けました。これまでのご努力を讃えるとともに、何らかの形で再刊されることを楽しみにしています。　（福島　清）